

平成28年度 事業報告

社会福祉法人 恵和会
特別養護老人ホームさざんか園
デイサービスセンターさざんか園
在宅介護支援センターさざんか園
銚子市西部地域包括支援センター

1. 特別養護老人ホームさざんか園全体事業報告

本年度は、4月から認知症者初期集中支援チーム事業がスタートし、在宅における認知症の方々の支援を行ってきました。さらに10月には、西部地域包括支援センターを受託し、地域支援へ向けての取り組みを一層充実させてきました。銚子市における「地域包括ケアシステム」の構築に向けて当施設として出来得ることをさらに模索しこれからも続けていきます。

今年度の計画の中で、介護ロボットの導入について触れましたが、実際に補助金申請を行った結果、多くの施設が申請されたことを受けて、補助率が大幅に減額となったこと、想定していたロボットの使い勝手が、まだまだ悪いこと等で今年度は実現できませんでした。ロボットの導入については、いろいろと開発されてはいるものの、現場での実証がまだまだ不十分のところもあり、人を援助する仕事の中での活用には、もう少し時間がかかるように思われます。導入事例等を確認しながら今後も検討を重ねていきます。

そして今年度の一番の課題となったのは人材の確保です。厚生労働省始め県・市町村がこぞって、介護を必要とする人口が増大し介護は大変になる。さらにお金もたくさん掛かり、財政が危機的状態である。と国民や県民・市民へとあらん限りのメディアを屈指して宣伝しています。そんな職場にどうして人が集まるのでしょうか。それよりも大切なのは、その時代に如何にして介護人材を確保するのかのほうを優先されるべきだと思います。当施設としてもあらゆる手段を用いて人材を確保していかなければ、今の事業規模を維持できないところまで追い込まれています。外国人介護福祉士等も視野に入れ人材の確保を最優先課題として取り組んでいきます。

特別養護老人ホームにおいては、要介護3以上の入所要件に加え、日常生活継続支援加算を取るために、本当に重度の方に絞っての入所が継続されています。その結果、在籍期間が短く入所者の多くが最重度の方となり、その人らしい生活の構築に苦慮しているのが現状です。日常のコミュニケーションを通じ、家族の方にも協力をいただき、利用者の望む暮らしの実現に向けて一層の努力を重ねていきます。